

■三宅米吉 言文一致、画期となる「日本史学提要」、金印「漢の倭の国の王」読み確定など、日本語や日本史の近代化の基礎。

みやけよねきち

桜田門外変・1860＝ 紀伊国和歌山城下で、藩士三宅栄充の長男に生まれる。

薩長同盟・・1866＝ 6歳：藩校学習館に入門、

明治維新・・1868＝ 8歳：

戊辰戦争終・1869＝ 9歳：民政局参事草野政信の教えを受けた後、

学問のすすめ1872＝12歳：宮内大監の職にあった父を追って上京し、慶應義塾正則部に入学。

成績優秀で飛び級し、在学2年ほどで年長学生の一となるが、年長の学科は政治学・経済学が中心で高度なものだったため、同級の尾崎行雄とともに別学級の設置を訴えるも転校を促され、尾崎とともに退学。

三つの内乱・1876＝16歳：父の新潟裁判所転任にともなって新潟に移り、官立新潟英学校英語教員心得となる。

西南戦争・・1877＝17歳：県立新潟学校英語教場に改組されると同校百工化学教場助手となり、英語教場訳読教師も兼任。

大久保暗殺・1878＝18歳：

琉球処分・・1879＝19歳：新潟学校を辞し、再び上京。草野政信宅に寄寓し、旧藩主徳川家の家扶上田章に漢文を学びながら、徳川家の蔵書を借覧するうち、新潟学校時代の校長で千葉師範学校長となっていた小杉恒太郎から招かれ、
・・・・・1880＝20歳：千葉師範学校教員となる。まもなく千葉中学校教員も兼任し、諸学を教授。教え子には、後に歴史学者となる白鳥庫吉・外務大臣を務める石井菊次郎らがいた。

明治14年政変1881＝21歳：慶應義塾時代の師で東京師範学校校長補の職にあった高嶺秀夫に招かれ、東京師範学校教員に転任。

新体詩抄・・1882＝22歳：*中上川彦治郎らとともに、発音式仮名遣いを主張して{いろはくわい}を組織。言文一致の先駆的運動となり、二葉亭四迷らの小説や新聞の社説などで使われ始め、その後の文章表記方法に影響及ぼす。

内閣発足・・1885＝25歳：_同志とともに{方言取調仲間}を設立。趣意書に、地方独自の言葉である方言を残すべく全国共通の標準語として、“我が日本の国語”という表現を用い、“国語”という言葉の嚆矢とされる。

帝国大学始・1886＝26歳：*日本近代史学上画期的な「日本史学提要」第一篇を刊行。金港堂編集所取締役となり、教科書編纂研究のため米国・英国に遊学し、

国民之友始・1887＝27歳：

初の対等条約1888＝28歳：_帰国。金港堂編集所長、国家統制から民間教育の独自性守ろうと教育学術雑誌{文}を発刊するが、

帝国憲法発布1889＝29歳：_教育社会から受け入れられず、編集人を退き、

帝国議会始・1890＝30歳：_廃刊。帝国博物館列品取調嘱託、

大津事件・・1891＝31歳：_東京高等師範学校教授に就任。

大本教・・・1892＝32歳：*江戸時代に志賀島で発見されていた金印の文字“漢委奴国王”を「漢の倭の奴の国王」と読む論文を{史学雑誌}に発表。諸説様々であったが、この学説が現代に至るまで通説となっている。

日清戦争始・1894＝34歳：

日清戦争終・1895＝35歳：

白馬会・・・1896＝36歳：*金港堂を退職。下村三四吉らと我が国初の考古学会を創設。帝国博物館学芸委員となり、以後、官の側。

古墳時代の遺跡・遺物の研究を進めて行く。

日露戦争終・1905＝45歳：

第一次大戦始1914＝54歳：

大暴落・・・1920＝60歳：_東京高等師範学校校長となり、

原敬首相暗殺1921＝61歳：

水平社結成・1922＝62歳：_帝室博物館総長を兼務。

関東大震災・1923＝63歳：

世界恐慌・・1929＝69歳：_新設の東京文理科大学(筑波大学)初代学長に就任したが、まもなく没した。